

五感で加賀探訪

～加賀市の関係人口を増やすために～

1.はじめに

1-1.概要

本プロジェクトは、石川県加賀市に着目し、関東圏の若者(20代)とその親世代(50代)をターゲットに、関係人口の増加を目指して1年間活動してきた。関係人口とは、定住人口や交流人口(観光客)とは異なり、その地域とさまざまな形で長期的な関わりを持つ人々を指す。展示会を通じて加賀市の魅力を発信し、興味を持った人々に実際に訪れてもらうことで、長期的な関わりのかきかけを作ることを目指した。

1-2.活動の背景と目的

加賀市は魅力的な温泉街がある反面、全国的に認知度が低く、年々少子高齢化が進んでいる(図1)。これらの課題を解決するために、地域の魅力を五感で体感できる展示会を開催して、加賀市への訪問意欲を高めることを目的とした。

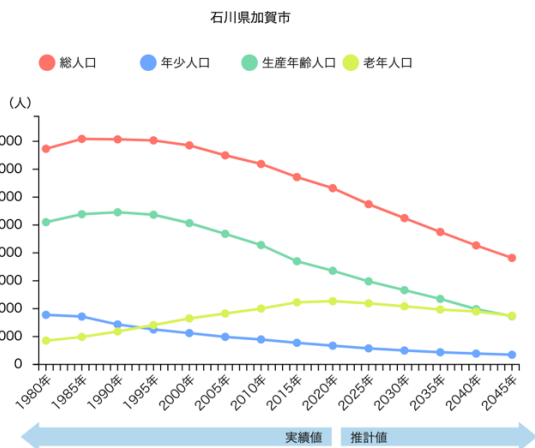


図1 加賀市人口減少のグラフ^[1]

2.展示会開催のためのテーマ決め

2-1.事前調査

春休み期間に各自が石川県の有名観光地や穴場スポットを調査したところ、発表の際に一番多かったのが加賀市だった。温泉の歴史や温泉街の街並みの魅力や、伝統工芸品の産地であること、IT分野に力を入れているらしいことなどを知った。2024年に新幹線が金沢から敦賀まで延伸したことにも注目し、加賀市が直面している課題や地域の特色などについて、インターネットの情報を中心に調査を行った。

2-2.第1回(金沢市、加賀市)フィールド調査

5月1日から3日まで、1回目のフィールド調査を金沢市と加賀市で行った。金沢市内はバスと徒歩で移動したが、加賀市内は公共交通が限られていることから自動車移動した。主に、加賀三大温泉のうち山代温泉と山中温泉を訪れた。山代温泉には古総湯と総湯の二つの温泉施設があり、古総湯は観光客に人気のある場所として賑わっていた(写真1)。施設の方に聞いて

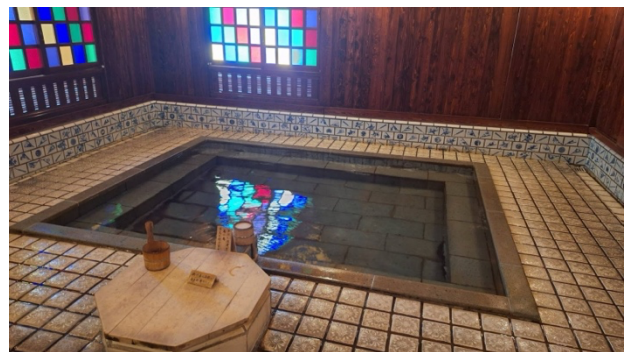


写真1 山代温泉古総湯

てみると、総湯は地元民から愛されており、総湯を利用する大半の人は加賀市民だという。さらに、山代温泉付近にある九谷焼体験ギャラリー-Coco で九谷焼の色付を行った。山中温泉付近は溪流にかかる複数の橋があり、あやとり橋のように横幅が狭くやや危険な所もあったが、都会の橋と異なり、自然とよく調和していた。

2-3.プロジェクト中間発表会

中間発表会は、五感を用いた展示会形式で発表を行った。視覚では、インパクトを考えて、遠くからよく見えた加賀大観音の実寸大の手のシルエットを床に再現した。聴覚では、NFC タグを利用し、生田緑地の環境音を実際の加賀市の自然の音と仮定して聞いてもらった（写真2）。嗅覚では、市販の山代温泉の入浴剤を使った温泉の香り BOX を作成し、香りを体験してもらった（写真3）。触覚では、体験で作成した九谷焼を展示して、手で触れてもらった。

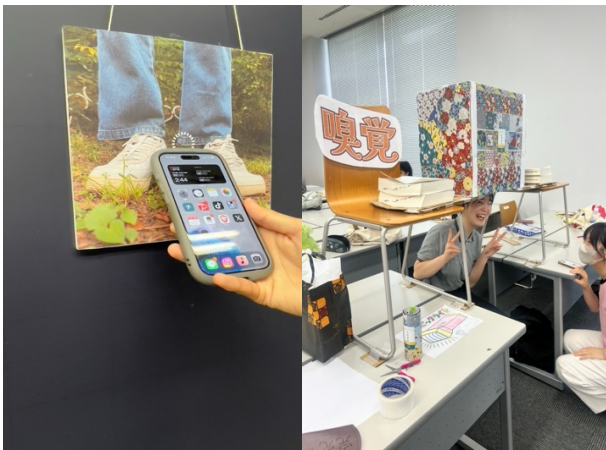


写真2 生田緑地の音 写真3 温泉の香り BOX

2-4.中間発表会の評価と考察

先生方からは、実際に加賀市を訪れた気分になるように、五感に関わる展示物の背景を明確にしたほうが良いというアドバイスを頂いた。

来場者アンケートの結果を図2、図3、図4に示す。五感の中では聴覚が一番印象に残り、

次が嗅覚だった。通常の視覚に頼る展示とは異なる印象を与えることができたと言える。また、展示内容が分かりやすいとの回答が多く、加賀市を訪れてみたいという人が過半数を占め、展示によって加賀市の良さを伝えることができた、という手応えを得た。

①五感をテーマとした発表でしたが、一番印象に残ったブースはどこでしたか？
17件の回答

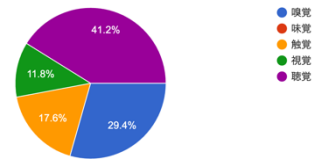
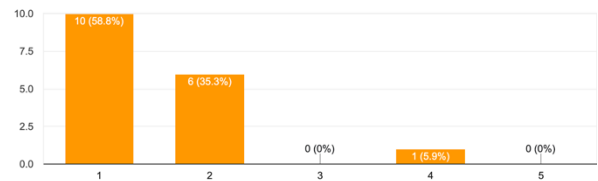


図2 中間発表印象に残ったブース結果

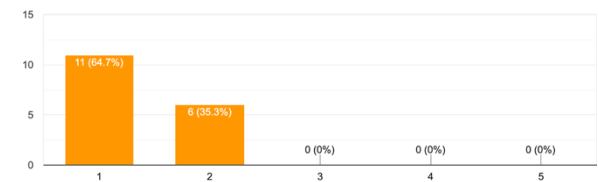
②展示内容はわかりやすかったですか？
17件の回答



←分かりやすい 分かりにくい→

図3 中間発表 展示物の分かりやすさ

③展示を見る前より、加賀市に行ってみたく思いましたか？
17件の回答



←行ってみたい 行ってみたくない→

図4 中間発表会 加賀市に行ってみたくか

3. 五感で加賀を感じ展に向けて

3-1.オンラインによる取材

9月に2回目のフィールド調査を行うことにし、その前の夏休みに、石川県の地域振興を行

なっている株式会社ぶなの森と加賀市役所観光課に、オンラインによるインタビュー取材を実施した。五感による展示を中間発表会よりも具体化するために、加賀市の魅力や現状を現地の人に聞くことを取材の目的とした。具体的には、加賀市で暮らしていて良いと感じる部分や不便だと感じる部分、加賀市に住んでいる、または移住した理由、加賀市の観光に関してどのような戦略を手掛けているか、新幹線が開通したことで加賀市の観光客の推移や観光需要に変化は生じたかなどを質問した。取材を通して、ぶなの森も市役所の方々も、加賀市に愛着を持っていることを感じた。自家用車が無いと不便で生活が困難になっているという現状や、バブル期には多かった観光客が減少していること、加賀市単独ではなく、金沢、福井、富山などとセットでの観光が多いこと、新幹線が延伸になっても観光の状況に大きな変化がないことなどがわかった。観光客の人数を増やすよりも観光の質を上げることを目指していること、観光のリピーターから移住者への移行を支援する事業を行なっていることなどがわかった。地元の人から見た観光スポット（逆に加賀大観音は市民にはバブル期の負の遺産）や魅力あるお店などをたくさん教えていただくことができ、フィールド調査の準備に役立てることができた。

3-2.第2回（加賀市）フィールド調査

9月15日から17日まで加賀市で調査を行った。事前に具体的な計画を立て、1日目に橋立と大聖寺地区、2日目は3班に分かれ山代、山中、片山津のそれぞれの温泉とその周辺の観光スポットを調査した。3つの温泉の観光協会などに事前に現地取材の依頼をし、準備を行った。

1日目は、オンライン取材のお礼のためにぶなの森の方々にお会いし、そのまま橋立や大聖寺を案内していただいた。橋立ではちょうどお祭りが行われていて、獅子舞などを間近に見る

ことができた（写真4）。2日目の調査では、各班がそれぞれの訪問先でのインタビューや風景などを映像と写真に納め、五感の展示会にどのように繋げるかを考えるようにした。最終日には加賀市役所へ行き、オンラインによるインタビューでお世話になった方々と直接話をした。お礼の訪問の予定だったが、さらに細かく加賀市の現状についてお話を伺うことが出来た。他にも、山中漆器の箸の絵付けを体験したり、日本酒や加賀棒茶の試飲をしたり、おすすめの和菓子を食べるなど、現地でしかできない五感のための体験ができた。また、当初予定になかった山奥にある東谷地区も訪問したが、赤瓦の家や潤う水など、特徴的な景色が印象的な場所だった。1回目に比べて2日目の調査では、五感に繋がる取材を十分行い、得るものが多かった。



写真4 橋立漁港の獅子舞

3-3.展示会の企画から展示物制作

第2回フィールド調査の成果を踏まえて、学外展示会「五感で加賀を感じ展」に向けた活動を開始した。展示会の基本方針は、中間発表で五感ごとに分けて展示した内容をより具体的に質の高いものにすることである。開催場所については、アクセスの良さや集客効果を重視し、複数の候補地を検討した。最終的に、向ヶ丘遊園駅前のビル内にあり、幅広い層の来場者を迎え入れやすい利便性の高い施設を選定した。また、北海道をテーマに同様の五感を活用した展

示会を計画していた佐竹プロジェクトと連携することになった。両プロジェクトが協力することで集客効果を高め、互いに補完し合う形で展示を行うことが可能となり、来場者にとっても一層魅力的な内容を提供できると考えた。

展示内容の充実にも注力し、多くのポスターを展示することで、加賀市を巡る旅をしているような雰囲気を出した。また、試飲・試食用に加賀市の特産品である日本酒や和菓子を取り寄せ、来場者に味覚を通じて地域の魅力を直接感じてもらえる場を提供した。加えて、九谷焼や山中漆器といった伝統工芸品についても詳細な解説を行い、実物展示を通してその美しさと技術の高さを伝えた。これらの取り組みを通じて、来場者に加賀市の多面的な魅力を体感してもらい、じっくり訪問してもらおう可能性を探る機会とした。また、展示会終了後すぐに行われる最終発表会も意識したことで、プロジェクト全体の方向性を明確にすることができた。

3-4.展示物紹介

ここからは、展示物の紹介をしていく。

獅子舞 橋立で何組もの獅子舞と遭遇し、とても大きく迫力があつたことが印象的だった。そこで、同じ大きさの作品を作って、来場者に驚きと感動を与えたいと考えた。制作工程が多いため、1名が自宅で50日かけて制作した。

ジオラマ 実際の風景を可視化して、来場者がどんな街かを想像できるようにした。片山津や橋立、東谷で見た景色は迫力があつた印象に残ったため、その迫力を表現するにはジオラマが最適だと考えた。建物や木など細かい部品が沢山あるため、100円ショップで材料を揃え、場所ごとに担当者を決めて制作した。

和菓子と日本酒 橋本酒造で試飲をした際に、日本酒の美味しさに感激したため、展示会で試飲する機会を設けて、実際にその良さを実感してもらおうことにした。また、和菓子は温泉文化

と共に発展し、加賀市に根強く残る文化だと知ったことから、試食の機会を設けた。取材で聞いた加賀市のお勧めの和菓子を取り寄せた。



写真5 獅子舞制作過程



写真6 東谷ジオラマ完成品

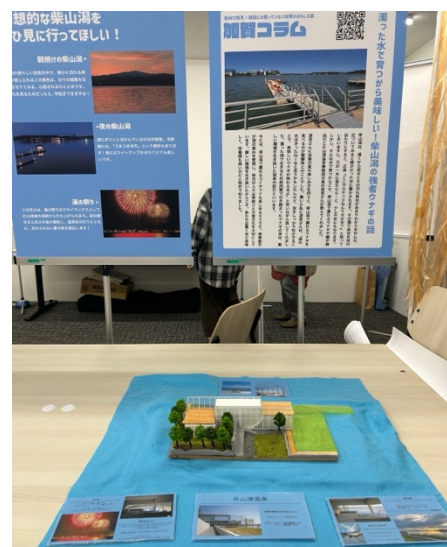


写真7 片山津温泉ジオラマ

九谷焼と山中漆器 加賀市の伝統工芸品で、フィールド調査にて制作体験を行った。九谷焼は皿の絵付を、山中漆器は橋の絵付を行い、メンバーの作品を展示して、手にとって触れてもらえるようにした。また、それぞれの歴史や製造工程、特徴などを紹介した。

映像 フィールド調査で山代温泉、山中温泉、片山津温泉、橋立、大聖寺の5つのエリアの観光地に取材に行った際に撮った動画を素材にし、構成を考えて加賀市の魅力を一通り伝える映像を制作した。他に、山代温泉と片山津温泉に焦点を当てた動画もそれぞれ制作した。

3-5.五感で加賀を感じ展の開催

2024年12月8日（日）に、向ヶ丘遊園駅南口の中和ビル2階の会場で、佐竹プロジェクトと合同で「ふらっと五感旅行」を開催した（写真8）。1日という短い時間だったが、70人の来場者に来ていただくことができた。事前の告知で知って来てくれた専修大学生の他、当日会場付近でのビラ配りや声かけで足を止めて会場に来てくれた地元の方々も少なくなかった。



写真8 展示会の様子

ターゲット層とした20代と50代の世代に限らず、年配の方や幼稚園児や小学生の子供たちも来場し、加賀市に興味関心を持ってくれた。ターゲット層に関係なく、どの世代も五感による展示を見て、加賀市に行ってみたいという気持ちになってくれることを知った。

中でも獅子舞は好評で、加賀市の祭りの様子も併せて説明することが出来た。また、ジオラマで街並みを詳しく再現したため、どんな街かを想像してもらうことができた。日本酒の試飲と和菓子の試食コーナーは人気で、十分用意したにも関わらず、足りなくなるほどだった。

反省点として、映像をじっくり見てもらうことが難しい会場構成になってしまったこと、上手く人員配置が出来ずに説明が疎かになってしまった部分があったことが挙げられる。

3-6.五感で加賀を感じ展の評価と考察

来場者アンケートの結果を図5、図6に示す。印象に残った感覚では、中間発表会と異なり、聴覚の評価が低く、その他の4つの感覚が高かった。試飲・試食が好評だったことや、ジオラマやポスターによる説明が印象に残ったこと、自分達が制作した伝統工芸品に触れてもらうことも効果的だったと思われる。一方で、インタビュー音声も聞けるコラムが、十分にアピール出来なかった可能性がある。

今回の展示で特に印象に残った感覚はどれですか？（複数選択可）
17件の回答

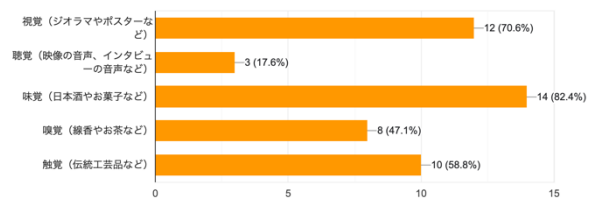


図5 展示会 印象に残った感覚アンケート

展示会を通じて、加賀市に対する印象は変わりましたか？
17件の回答

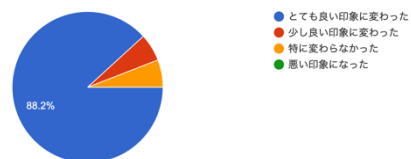


図6 展示会 加賀市の印象

9割近い人が加賀市について「とても良い印象に変わった」と回答していることから、五感を通して加賀市の魅力を伝えるという目的は達成されたと思われる。実際、17名中16名が加賀市に行ってみたくて回答した。

3-7.プロジェクト最終発表会

中間発表会、五感で加賀を感じ展で得られた反省点を踏まえ、加賀市の見どころの紹介映像を視聴してもらってから、順番に各場所を回るような配置にした(写真9)。発表内容は五感で加賀を感じ展と同様だが、各場所の説明は人員が必ず常駐して説明漏れがないように心掛けた。ジオラマや獅子舞、伝統工芸品、日本酒、和菓子などの細かい歴史や詳細をしっかりと説明するようにした。実際に、中間発表会との違いに気づいてくれる来場者もいた。

来場者アンケート(38件)の結果、約79%が加賀市について「とても良い印象に変わった」と回答し、展示会同様、加賀市の魅力を伝えるという目的を達成できた。



写真9 最終発表会

4.終わりに

4-1.まとめ

加賀市を訪れて観光してみたいという人は、年齢を問わずどの世代にも当てはまることが分かった。また、展示会や最終発表会の来場者の多くが加賀市を魅力的な街だと評価してくれた

ことから、山下プロジェクトの狙いだった加賀市を知ってもらい加賀市に行ってみたくてという気持ちを持ってもらうことの2点を達成できた。ただし展示会による加賀市への関心が継続的なものとなるかどうかまではわからない。

4-2.今後の展望

展示会で作成したポスターをWebサイト上でアーカイブとして閲覧できるようにし、五感で加賀を感じ展をオンライン上に残す予定である。加賀市の展示会の宣伝用として活動を記録するために開設したインスタグラムを、プロジェクト活動終了後も継続し、加賀市を訪れた際、または加賀市の新たな情報や、私達や観光客にとってプラスになることが見つかった際に、積極的に発信していきたい。また、個人でも加賀市のことを追求し続ける活動を行うことで関係人口を増やしていきたい。加賀市が10年後、20年後も発展し続けることをプロジェクトメンバーとして切に願っている。

参考文献

[1]経済産業省中小企業庁事業環境部企画課調査室と内閣官房新しい地方経済・生活環境創生本部事務局 RESAS 石川県・加賀市を選択

[https://resas.go.jp/data-analysis-support/#/population-composition/17/17206/1/-](https://resas.go.jp/data-analysis-support/#/population-composition/17/17206/1/)

(最終確認日 2025年1月15日)

謝辞

下記の方々や機関、お店にご協力をいただきました。記して感謝の意を表します。

ぶなの森、加賀市役所、加賀市観光情報センター、山代温泉観光協会、片山津温泉観光協会、ギャラリーCoco、ゆのくにの森、大日盛酒造資料館(橋本酒造)、しもつね菓子店、黒崎BASE、日鉄興和不動産